



つつじ会だより

静岡県在宅保健師の会「つつじ会」

No.22 平成29年度

会長挨拶

静岡県在宅保健師の会つつじ会 会長 鈴木 富士子



7月の九州北部豪雨から3か月余りが過ぎようとしています。被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

去る6月2日、平成29年度つつじ会総会及び「つつじ会25周年記念式典」が多数の会員出席のもと開催されました。

総会におきましては、役員改選が行われ新役員をご承認いただき、新しい会員も迎え44名で新年度をスタートしました。昨年に引き続き役員は1名欠員の5名ですが精一杯務めさせていただきますのでよろしく願いいたします。

「つつじ会25周年記念式典」につきましては、来賓に、国民健康保険中央会理事長 原 勝則様、静岡県健康福祉部理事 土屋厚子様、つつじ会の大先輩保健師の皆様9名をお迎えし盛大に和やかに行われました。

改めて発足から25年の歩みを振り返り、設立当初から行っております家庭訪問事業の実績(25年間で延べ14,500件を超える件数)に向き合いますと身の引き締まる思いがいたします。「少しでも市町のお役に立ちたい、地域に出て住民の方々の力になりたい」という強い思いとやり抜く力に、圧倒されます。

そして保健師は何をする人か?戸惑ったり迷ったりした時には原点に立ち返れと、私達に考えるヒントをも与えてくださっています。まだまだ足元に

も及びませんが先輩保健師の方々の“こころざし”を受け継ぎ、より一層信頼される会として活動していくために研修会内容の充実を図り、質的にも内容の濃い事業を進めていきたいと思っております。

平成27年度から始まった特定健診受診者のフォローアップ等家庭訪問事業(生活習慣病の発症予防・重症化予防に主眼を置いた家庭訪問)は3年目となり、今年度は御殿場市と川根本町において各市町のご協力のもと現在取り組んでいるところです。本事業の事前打ち合わせや、訪問保健師のサポートをさらにきめ細かく準備していきたいと思っております。

また、日頃は個人で活動されている会員がほとんどですので、皆様の関心の高い研修内容を取り入れ会員間の交流・情報交換にも努めてまいりたいと思っております。皆様の積極的なご参加とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、国保連合会事務局の皆様にはご多忙にもかかわらず、当会事業推進に多大なご支援とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。



平成 29 年度総会

平成 29 年 6 月 2 日 (金)

葛城 北の丸

<出席者> 東部地区 10 名
 中部地区 10 名
 西部地区 6 名
 計 26 名

【総会】

議案第 1 号 平成 28 年度事業報告
 議案第 2 号 平成 28 年度会計報告
 議案第 3 号 「つつじ会」役員の改選
 議案第 4 号 平成 29 年度事業計画

【お礼の会】

定年退会者 杉山 茂子氏、佐々木 翠氏

平成 29 年度つつじ会総会は、6 月 2 日袋井市「葛城 北の丸」にて先輩保健師の方々のご同席中、現会員 26 名が出席し、開催されました。

はじめに山田由美子会長の挨拶では、国保連合会の保健事業への協力として特定健診受診者のフォローアップ等家庭訪問事業について報告がありました。昨年は島田市 101 名、東伊豆町 81 名 計 182 名の訪問が実施されました。今年は、御殿場市と川根本町にて訪問事業が予定されており、誠意を持って取り組みたいとお話でした。

毎年つつじ会では、手紙や電話ではなく、直接地域の住民の顔を見て住民に寄り添う家庭訪問にしております。実際に訪問して知り得る事も多く、今年もこの方法で実施していく予定です。

その後事業報告、会計報告、事業計画について説明があり、それぞれ承認されました。

今年は役員改選の年であり新たに会長、副会長、幹事が選ばれました。新会長には鈴木富士子氏が就任され、保健師としての気骨と勇気をもって、基本に立ち返り、地域に出向き住民の話に耳を傾け寄り添う仕事をして欲しいとお話がありました。

総会終了後には、長年つつじ会で活躍された先輩保健師の杉山茂子氏、佐々木翠氏お二方のお礼の会が開かれました。

杉山氏からは家庭訪問の重要性や訪問する事で自分が成長出来たこと、人生経験が豊かになったこと、佐々木氏からは保健師の活動は目立たないけれど現役時代では経験出来ないドラマがたくさんあったこと、保健指導は一方的ではなく住民に寄り添ったものだったのか？等経験を通してお話をいただきました。お二人とも伊豆地域の広い範囲を毎年

訪問していただきました。御礼申し上げます。ありがとうございました。（中部会員 清水武美）



《山田由美子会長の挨拶》



《新役員紹介》



《定年退会者 佐々木さん、杉山さん》

つつじ会 25 周年記念式典

つつじ会 25 周年記念式典は、山内参事の司会進行のもと、国保中央会、県の健康福祉部より来賓をお迎えし、先輩保健師 9 名をお招きし盛大に行われた。なつかしい元気な先輩たちのお姿を拝見し、楽しい時間を過ごすことができた。

まず国保連合会常務理事 萩原綾子氏から、つつじ会が、設立以来国保連合会や国保保険者における保健事業への支援や地域住民の健康づくりに尽力してきたことへの感謝があり、特に家庭訪問事業では今までに約 14,500 人の方々への実績があり、保険者からも感謝の声が寄せられていること、今後も先輩達の高い意志を受け継いで、地域に根ざした活動を展開してほしいと願っている、と挨拶があった。

次に国保中央会理事長 原 勝則氏から、つつじ会会員一人ひとりの努力と熱意で会を支えてきたこと、連合会事務局や県、市町関係諸機関の理解と支援に敬意を表するという言葉に始まり、平成 3~5 年に県障害福祉課長として厚労省より出向し、静岡を第 2 の故郷とっていること。少子高齢化社会の進展により、医療・保健・福祉をめぐる状況はここ 25 年で大きく変化し、国保制度も来年 4 月に半世紀ぶりに大改正が行われる。保健事業にかかる市町の努力指標が多く盛り込まれ、市町は取り組みを強化していくこととなり、大きな期待も寄せられているが、人材不足や財政事情もあり地域における保健事業の充実・推進の上で在宅保健師の力は重要になってくる。つつじ会は訪問事業で保険者や住民から好評を得ているので、地域に根ざした保健事業の継続を願う。また、26 年度介護保険制度改革で総合事業が始まり、ここでもこれまでの経験や技術を地域に還元して、地域づくりの一翼を担っていただきたい、と話された。

県健康福祉部理事 土屋厚子氏からは、日頃の県の保健行政に対する協力への謝辞の後、今、保健師を取り巻く環境が大きく変化しており、地域の住民に保健活動、保健師の存在が見えない状況がある。

保健師が住民に本当に寄り添っているのか、地域住民と共に明日の幸せを願い健康を基本に活動できているかが問われている。30 年度から大きく制度が変わるので、これを機に保健師の原点を取り戻したいと考えているので、県下約 1,000 人の保健師を見守って、ご指導いただきたいと保健師の立場から、危機を感じている現状を話された。

次に「住民に寄り添って 25 年」と題して、つつじ会初代会長 松下とき子氏より講話があった。平成 5 年 7 月、国保連合会の趣旨に賛同し、全国でも早く 66 名の会員でつつじ会が発足した。当時は市町村の定年が 55~56 歳と若く、まだまだ現役で活動できる保健師も多かった。職能を生かした活動を目指し、全国でも珍しい 75 歳定年制を設けた。藤枝市を退職された一言さんが平成 5 年に連合会に就職され、お互いに良き理解者となりつつじ会が活動しやすい環境の基礎を作った。二人の功績はつつじ会にとって大きなものであると思う。また家庭訪問の事例を紹介しながら、長年の経験から得た訪問時の保健師の姿勢や態度、しぐさや言葉かけをわかりやすく話され、最近の保健師の立場や仕事への不安にも言及された。

最後に国保連合会の高塚専門員よりつつじ会の変遷として、つつじ会の活動内容についてパワーポイントを使いながら、報告があった。中でも家庭訪問事業を振り返り、平成 6 年から始まった訪問事業は、当時は 1 名の保健師が 2 ヶ月位で 100 件訪問して、市町の保健課長から「訪問記録はわが町の財産です」と言っていたこと、住民から保健師の仕事を理解してもらったり、感謝されたり、住民の言葉にこちらも励まされたことが紹介された。

(東部会員 土屋優子)



平成 29 年度全体研修会

平成 29 年 6 月 2 日 (金)

【内 容】

葛城 北の丸

講演：「老いない体をつくる

<出席者> 東部地区 10 名

～エンジョイ・エイジングのすすめ～

中部地区 10 名

西部地区 6 名

講師：中京大学スポーツ科学部教授

来賓保健師 9 名

中京大学大学院体育学研究科教授 湯浅 景元 氏

計 35 名

午後は、「老いない体をつくる～エンジョイ・エイジングのすすめ～」と題し、中京大学スポーツ科学部教授 湯浅景元先生による全体研修会がありました。

湯浅先生は現在、中京大学スケート部の部長としてフィギュアスケート選手の指導にもあたっておられ、浅田真央選手や小塚宗彦選手も教え子のひとりとのこと。有名な先生の講演ということもあり、また、普段介護施設にも勤務している私にはとても興味深い研修内容でした。

「老いない体をつくる」とは「健康寿命を延ばすこと」。エンジョイ・エイジングとは、老後も「元気で楽しく生きること」。年を取ることでみえてくること、経験できることもあるので、ぜひエイジングを楽しみましょう。

そのためには、まず、健康であることが必要です。メタボを防ぎ、運動をしましょう。まずは座る時間を短く、そして、ウォーキング・筋トレ・ストレッチをしましょう。と、実践を交えながら効果的な方法を教えて頂きました。

先生のお話はユーモアに富んでいてとても楽しく、充実した時間を過ごすことができました。

ご指導くださった内容は、いつでも どこでも普段着でできるものです。日頃から自分の為に実践し、身につけ、保健指導にも活かしていきたいと思えます。



【まとめ】

- ◎ 1 秒でも長く立つ
- ◎ 1 歩でも多く歩く
- ◎ 一区切りついたら体を伸ばす
- ◎ 1 日 1 回、7 秒間 筋トレをする

(西部会員 山田久美子)



《講師の湯浅景元先生》



《先生による実践指導》

平成 29 年度第 1 回学習会 午前の部

平成 29 年 9 月 29 日 (金)
静岡県国保会館

<出席者> 東部地区 5名
中部地区 8名
西部地区 1名
計 14名

【午前の部】

- 1) 国保連合会の保健事業について
静岡県国民健康保険団体連合会 事業課
- 2) 講義『小児虐待をきっかけに始まった地域づくり』
～保健師の視点から～
京都看護大学 教授 三輪 眞知子氏

今年度第1回学習会では、まずはじめに国保連事業課秋山係長より「医療保険制度改革の背景と方向性について」及び「平成30年度から実施される改革後の国保の運営に係る都道府県と市町村それぞれの役割等について」のお話がありました。医療費は毎年約1兆円規模で増加しており、今後の現役世代の負担額は深刻です。国民皆保険を将来にわたり堅持し、医療保険制度を安定化させていくためにも財政運営を見直す等のこの改革の重要性について改めて認識しました。

また、連合会保健師の立場で森主査より「全国在宅保健師等会の活動を通してつつじ会の活動を考える」をテーマにお話がありました。全国では平成27年11月現在40都道府県に在宅保健師等会が設置されている現状や、まだ未設置の県があること、看護師、栄養士等の他職種が所属している会もあること、静岡県のつつじ会は全国の中でも早期に設立され活動している等々を知りました。また、島根県の災害時の支援活動や青森県の新任等保健師育成事業について紹介がありました。在宅保健師等会の活動は、特定健診等に関する事業、介護予防、災害支援等多岐に渡り、多方面から地域保健活動の担い手としての期待が今後益々高まると考えられます。市町では限られたマンパワーの中で事業を展開していかなければならないので、求められているものに対してどのような支援ができるのか、地域の実情に応じた活動を行っていかねばならないとのことでした。高塚保健師からはつつじ会25年を振り返って、「あなたに会えて良かった」と言われる会員がたくさんおり、つつじ会会員こそが本物の保健師というお話を伺い、大変心強く感じました。

次に京都看護大学教授 三輪眞知子先生から「コミュニティ・エンパワメント」の講義がありました。エンパワメントとは住民が自分の健康について自身で判断し行動できるよう支援することで、個人、集団、地域の3つのレベルに分類されます。その中の地域が社会的経済的な資源を獲得して社会環境を整備し、個人や小集団にそれらを利用しやすくすることであるとのことでした。地域自ら課題を解決する力でありそのためには環境整備、住民の力、行政の力が必要とのことでした。またソーシャルキャピタル(人と人とのつながりが社会資源である)が着目され、その活用を通して健康な町まちづくりの推進が地域保健の方向性として示されてきています。これまでの個人を捉えた従来型予防政策には限界があります。個人ではなく環境への介入としてソーシャルキャピタルの可能性、まちづくり型介入の取り組みが必要となります。人や社会、地域とのつながりが個人や地域の健康に影響を与えていることを学びました。函南町の住民行政協働による子育て支援の取り組みの紹介の中で、それらが効果的に展開されていると感じました。

今回の学びを今後の活動に活かしていきたいと思います。
(中部会員 伊藤美子)



平成 29 年度第 1 回学習会 午後の部

平成 29 年 9 月 29 日 (金)

静岡県国保会館

【午後の部】

『意見交換とグループワークを通して、
在宅保健師の活動を考える』

<出席者> 東部地区 5名
中部地区 7名
西部地区 1名
計 13名

京都看護大学 教授 三輪 眞知子氏

午後の学習会は、午前に引き継ぎ、表題「コミュニティ・エンパワメント」の講義内容についての感想を発表し合うことから始まりました。講義を傾聴し、今まで不安ながらに保健師としての仕事に従事してきたことに確信や勇気を頂きました。また、地域にかかわる保健師としての立ち位置は、看護の基本に立ち返ることを根底に様々な人達と協力し合い、調和をとりながら地道に地域のニーズにあった活動に方向づけていくこと等、数々の感想が聞かれました。

三輪先生より、高齢化時代に向けて在宅虚弱療養者の増加が予測される事やアパート、マンション住まいの核家族化が進み、地域とのつながりが希薄になっていく状況の中で保健師として活躍する場面が多くなっていくが自己満足にとどまらないようにとの励ましのお言葉を頂きました。

個人・家族・組織を地域につなぐ、地域が動けるよう支援していく事が保健師の役割であり、継続させていくことが大切。大きな課題ですが、微力ながら可能なことには携わって、小さな種をまかなければ…と身が引き締まる思いでした。

その後、午後のメインテーマとされていた「グループワークを通して、在宅保健師の活動を考える」を、寄合いワークショップ手法に則って、進んできました。各グループで、在宅保健師として活動する中、悩み事や困り事等を出し合いました。担当している業務しか関われないため、仕事が断片的で自分自身の評価も分からない。研修の機会が少なく、新しい情報が少ない中での指導は不安。在宅という立場でどこまで関わって良いのか分からない。また長年頑張ってきているつもりでも、賃金面での評価

が変わらないなど現実的な思いもありました。各グループ発表後付箋に書き記し、カテゴリー別に掲示板に表示し、整理していきました。付箋の枚数が多いカテゴリーを目の当たりにすると、日頃の思いが共鳴でき、とても癒されました。時間に制限があり、打開策への検討には至りませんでした。活動の場や環境によって解決策も様々だと思います。又、いつの日かその後の話し合いができる事を心待ちにしたいと思います。

同職種の集まりは、適度に刺激しあい、同じ立ち位置に立っている仲間同士の大切なオアシスの場だということを改めて感じた一日でした。

(記事：河合君江 編集：勝呂真弓)



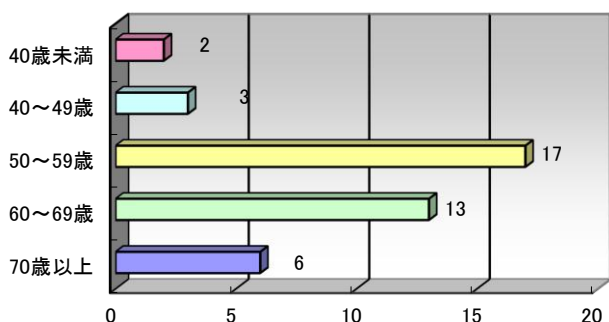
《講師の三輪眞知子先生》



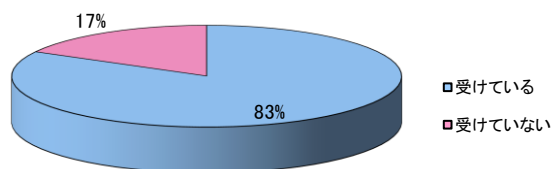
《グループワークの様子》

平成 29 年度会員の活動状況（アンケート調査より）

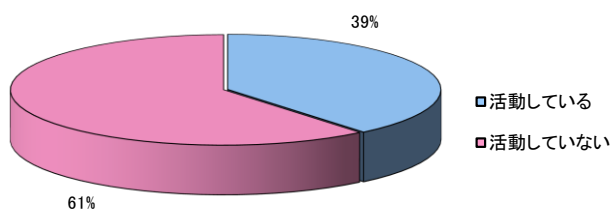
年齢階層別人数（会員数 41 名）



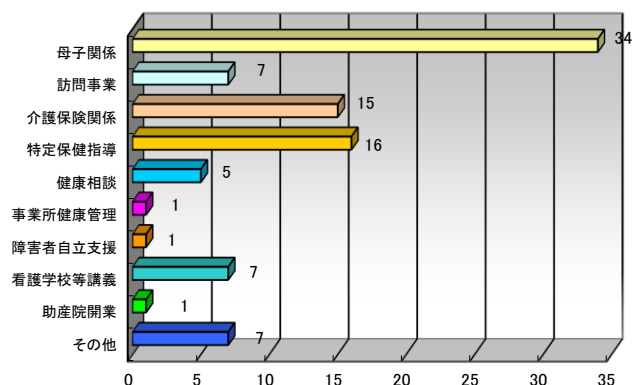
市町・事業所・健診センター等から委託業務を受けている人



地域で活動している人（ボランティア等）



業務別従事状況



平成 29 年度 事業計画

- ・ 6月2日 つつじ会 25周年記念式典（葛城 北の丸）
- ・ 6月27日 第1回編集委員会（国保会館）
- ・ 8月～10月 国保連合会保険者支援保険事業への協力
特定健診受診者フォローアップ等家庭訪問事業（御殿場市・川根本町）
- ・ 9月29日 第1回学習会（国保会館）
- ・ 10月27日 都道府県在宅保健師等会全国連絡会役員会への参加（東京都永田町）
- ・ 10月31日～11月2日 第76回日本公衆衛生学会への参加（鹿児島県鹿児島市）
- ・ 11月9日 第2回編集委員会（国保会館）
- ・ 11月29～30日 視察研修（岐阜方面）
- ・ 未定 第2回学習会
- ・ 随時開催 役員会

つつじ会25周年記念式典



編集後記

つつじ会も出会いと別れを繰り返しながら25周年を迎えました。先輩たちの思いを受け継ぎ今後も活動を続けていきたいと思えます。今年度は役員改選があり新役員でスタートしました。

近年の異常気象や自然がもたらす災害は想像を超えることが多く心が痛みます。普通に生活できる幸せ、当たり前の日々に感謝です。残暑のなか家庭訪問事業が始まります。私たちの訪問で健康寿命を延ばすお手伝いができることを願っています。

事業の都合により発行が大変遅れましたことをお詫び申し上げます。今年度も皆様のご協力よろしくお願いたします。日頃ご支援してくださっている連合会の皆様にお礼申し上げます。(中部 甲賀礼子)

「つつじ会」会員募集

つつじ会では、今までの経験を活かし、一緒に活動していただける方を随時募集しています。身近に関心のある方がいらっしゃいましたら、つつじ会役員まで御連絡ください。

10月1日現在の会員数は44名です。

☆静岡県国保連合会ホームページ内のつつじ会案内もぜひご覧ください。



編集委員紹介



後列左より 浅賀編集委員 山田編集委員
前列左より 甲賀編集委員 勝呂編集委員長

平成29年10月発行

発行者：静岡県在宅保健師の会 「つつじ会」

事務局：静岡県国民健康保険団体連合会

総務部 事業課

〒420-8558

静岡市葵区春日2-4-34

TEL 054-253-5576

FAX 054-253-5507